収入向上・女性の自立

先住民族の収入向上の決め手は？
― 果樹・ゴムノキ・高原野菜の栽培 ―

＜ 果樹栽培 ＞

環境を守りながら収入向上を図る森林農業（アグロフォレストリー）実施面積は、2010年9月末までに261ヘクタールになりました。一部地域ではバナナ、マンゴー等の自家消費と販売が始まっています。しかし価格が不安定で、品質管理された大農園のものほどは高く売れない等の課題もあります。

年	地域	ha	在来種・果樹苗	助成機関
‘03	ｴﾙｸﾀﾞ	11	2,130・1,020	A
‘03	ﾗﾑﾌｺﾞﾝ	40	8,400・4,288	N
‘04	ｶﾝﾀﾞﾝ	20	4,150・4,020	Y
‘04	ﾗﾑﾌﾞｿﾝ	45	13,275・2,781	A
‘06	ﾊﾟｸﾞﾅｲ	30	8,020・4,160	A
‘06	ﾌﾞﾊｶﾞﾝ	50	10,000・6,100	N
‘08	ｸﾊﾝ	30	5,650・4,785	A
‘09	ﾌﾞﾗｸｰﾙ	35	3,500・*10,650	M

植栽面積：261ヘクタール(ha)

苗木数：在来種 55,125 果樹苗 37,804 ＊ｺﾞﾑﾉｷ 10,650

助成機関：A(イオン環境財団 N(国土緑化機構/緑の募金) Y(横浜国際交流協会) M(三井物産環境基金)

＜ パラゴムノキ栽培 ＞

一方で、近年の需要増によりパラゴムノキ農園が近隣に増えており、私たちの事業地域でも昨年からブラクール他で実施しています(P2 参照)。 パラゴムノキは収穫までに6-7年必要で、その間、樹間にバナナ、コーン、ピーナッツなど換金作物を栽培しながら苗木の手入れを続けます。今年度は「緑の募金交付金」助成で、タラヒク村の 28 ヘクタールでもパラゴムノキを植えることになりました。収穫が始まれば安定した収入が期待できるこの「年金プロジェクト」に夢を託す住民が増えています。

＜ 高原野菜栽培 ＞

9月に水道が完成したタンダとクルファンディ地区(P2 参照)での高原野菜栽培事業の企画書が届きました。2009年に簡易水道が完成し、良質な野菜販売の実績があるゴメロ村がモデルです。冷涼な山村の利点を生かし、先住民族がその生まれた地で暮らしていく自立への第一歩です。

糸紡ぎ、染め、織り、刺繍、ミシンかけ
― 働く COWHED 組合員とレイクセブ住民

COWHED 組合員の家々を訪問し、昨年末から始まったマイクロファイナンス（＝無担保小口融資）を、どのように利用しているか伺いました。

3000ペソ(6千円)を借りた刺繍が得意な女性は刺繍糸、針、ブラウスの生地の購入に利用したそうです。生地は10m購入、2mで1着のブラウスができます。返済は月1回、1090ペソずつ3回で返却します。

（右上から時計回りに）民族衣装に刺繍をする、織機の緯糸（よこいと）をとおす杼（ひ）に糸を掛けるマリアさん、軒先のアバカ糸とジェリーくん、刺繍を施したブラウスの完成

ジュリアさん（写真のジェリーくんの母、34 才）は、小学校に通ったことがありません。識字教室で読み書き算数を学び、いまでは夫とともに畑とサリサリストアを切り盛りし、夜は織物をします。働き者で信用があるので、15000ペソ(3万円)を6ケ月で返済する約束で借りています。

借り手は組合員以外にも広がり、現在 232 名の借り手がいます。また約 160 名が貸し付けを待っています。これらの借り手の家々を回り、仕事が順調かどうか確認する担当者、ダイアナさん、ダリアさんの仕事も大変です。それでも同じティボリ民族が貧しさから抜け出すためなら頑張れる、と語ってくれました。